

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 348 号	氏名	筒井 伸
学位審査委員	主 査	河野 茂	
	副 査	大園恵幸	
	副 査	下川 功	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、多列検出器 CT の進歩により肺内に限局したすりガラス影がしばしば検出されるようになり、その対処法についてどのようにすべきか、ということへの方向性をつけようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>この種の研究では放射線所見の評価法が重要であり、複数の医師で判断し可能な限りバイアスを除外するようにデザインしたもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>高分解能 CT で検出された限局性すりガラス影の放射線学および病理学的特徴を明らかにした後ろ向きの研究であり、病変の多くが経時的に変化がなく、治療方針として経過観察が妥当との結論であり、今後の前向き研究への進展が期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は検診などで発見される機会の多いすりガラス影の評価および診療方針に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			